
聖剣の姫君 設定資料集

柳沢紀雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

聖剣の姫君 設定資料集

【Nコード】

N1726F

【作者名】

柳沢紀雪

【あらすじ】

聖剣の姫君で使用されている雑多なものに関する詳細を載せています。

オリハルコン（前書き）

アトランティスに存在した幻の金属を物語にあうように設定しました。

あらゆる物質を凌駕する究極の物質とするか、それとも単純に非常に材料特性に優れた物質とするか悩みましたが、自分の専門を生かす方向で後者を選択しました。

こんな材料があれば、世界がひっくり返るなど思いながら作り上げたものですので、その性能はかなり無茶です（下手をすれば、ストランド十数本で明石海峡大橋が支えられるのではないかな？）。ただし、ワイヤー加工を施すのは非常に困難というか不可能に近いかもしれません。架空の物質ですので、そのあたりはご容赦ください。

オリハルコン

ダイヤモンドなみの硬度があり、ミスリルよりも強度がある幻の金属。この生成には賢者の石が必要で、賢者の石があれば比較的容易に生成することができる。

精製方法

- ・賢者の石を用意する
- ・水銀を大量に用意し、それを鉛の容器に入れる
- ・予め形成しておいた金を先の容器に投入し、賢者の石と共に封入する
- ・一週間ほど放置し、容器の鉛に白金プラチナが表出し始めれば容器を破壊し、中身を取り出す
- ・水銀が銀に変化し、その中心の金が白亜色の金属に変化していればそれがオリハルコンとなる

加工方法

事実上精製したオリハルコンの加工は非常に困難になるため、予め精製する前の金を形成しておく。さらに、精製時にハンマー状のオリハルコンも精製しておき、仕上げはそのハンマーとダイヤモンドパウダーを使用する以外に有効な手段はない。

機械的特性

ヤング率は鋼鉄の10倍で、引っ張り強度は15倍近く、さらに破断する寸前まで弾性変形を続け、塑性変形に至るのは破断ひずみの0.0002%手前となる。

融点は6700（金属中もつとも融点の高いタングステンでも3400ほど、ちなみに沸点は5000）程度で熱ひずみも極

小、硬度はダイヤモンドが10に対して、9（タングステンやサファイアよりも硬い）。密度はアルミニウムのおよそ0.9倍と強度に対して驚くほど軽い。耐食性、耐摩耗性、耐衝撃性、耐魔力性に長ける。

賢者の石（前書き）

あらゆるファンタジーにおいて重要な物質である賢者の石を、様々な物語の設定を参考に（ぱくり）ながら作り上げました。

賢者の石

古代エルフ族の学者、オルガニック・パラケルススの生み出した伝説の石。

これは卑金属から貴金属を作り出す究極の触媒であり、オリハルコンを作り出す唯一の物質であり、また、これを水に溶かせば万病に効果のある神薬、生命の水を作り出すこともできる。

製造法は魔法力が物質化するまでひたすら練り上げるのみ。この賢者の石には当時最強クラスの魔術師達が何十人も集まり、数年間の歳月を費やして練り上げられている。その中心には人間が立たされ、その人間の中で賢者の石は製造される。その媒体となるのは人の魂やがて、物質化した魂は人の命としての役目を終え、息を引き取った人間の体内から賢者の石を取り出す。賢者の石を作り出すには一つに対して一人の命が必要となる。

製造された5つの賢者の石のうち、一つ目は人型生体兵器のコアに使われ、二つ目と三つ目はオリハルコンの生成に使われ、四つ目は生命の水となり、五つ目は今も世界のどこかに眠っていると言われている。

その見た目はアルカリ金属の中でも特にナトリウム金属に酷似している。通常の状態では、空気中の元素が表面で触媒作用による物質変換を起こし、酸化被膜のようなものを形成することで内部を保護している。しかし、非常に強力な触媒であるため取り扱いには注意が必要である。持ち運びには、酸化被膜で被われた表面を安定な物質（金箔のようなもの）包む必要がある。さらに、水分に対して容易にとけ込む性質もあるので、保存には先の処理を施した上で密封容器に乾燥剤を共に封入しておく必要がある。

不安定な物質であり、半減期が存在する。

（劇中における）現在ではその精製方法は失われた技術となり、以前ベルディナが魔法ギルドにおいて再現の研究を行っていたが、莫大な資金と人材、金を投入して、僅か数 μ g程度のものしか精製できなかったため現在では凍結されている。なお、それをを用いて精製したオリハルコンの量は消し炭程度にしかならなかった（1mg以下）。その時の研究で媒体となった生命体は当然ながら人間ではなく動物だった（人道的見地より）。もしも人間を使用していれば、もう少しまとめた結果が得られただろうと彼は呟く。

ミスリル（前書き）

ロードオブザリングで登場する架空の金属に関する独自設定です。

まあ、名前が同じなだけで別物としておきます。

物性値は鉄と殆ど同じとしましたので割愛しました。

ミスリル

鉄鋼よりも希少だが、鉄鋼の次に広く使用されている金属。鉄よりも軽く（同体積なら鋼の70パーセント）、機械材料としての性質は鋼によく似ている。しかし、鉄と大きく違うのは含有する物質（カップパー、クロム、モリブデン、ニッケル、シリコンなど）の違いにより魔法力に対する反応が変わることである。故に魔法学においても重要な物質となっている。

一般的に鉄の3,4倍のコストがかかる。グラジオン王国はこの金属の産出量世界最大。

機械材料として広く使用されているのは、カーボンを適量含有させたもの。魔法学に有用なのはさらにニッケルやクロムを含有させたものとなる。剣や鎧など武器の製造にも優秀な特性を示す。

自然界では多くは酸化ミスリルとして地表付近にあり、鉄鉱石が産出する鉱山においてその一割ほどがミスリルを含有する鉱石となっている。

鉄に比べると磁性が低いため、磁石による分別が可能である。酸化ミスリルはそのままでは有効な材料ではないため、炉で溶かし（融点は1600程度）それに一酸化炭素などの還元剤を吹き付けることで酸素を除去しミスリルを得る。その後、炭などの炭素を加えることで、材料として有効な性質を加えることとなる。鉄と同様、焼き入れ、焼きなまし、焼き直しなどの熱処理が有効で、鍛造、鋳造など幅広い使用が可能となる。

剣に使用されるものは、炭素を僅かに含んだ粘りのある軟ミスリル鋼を主として、刃の部分は僅かに炭素量が多い硬ミスリル鋼を使用するのが一般的である。また、クロムを含むことで耐食性に富む非食ミスリル鋼を使用する場合もあるが、それは非常に高価になる。

モリブデンを含むことで高張力性を得る。その他諸々の材料特性は鉄と変わらない。ただし、魔力に対する特性や強度は圧倒的に鋼を凌ぐ。

魔法ギルド（前書き）

本文中の説明に対する補足（蛇足）。

魔法ギルド

魔法ギルド

魔術師たちを養成し、その魔術師を世に送り出すことを目的とした伝統ある組織。王宮魔術師や、その他権威ある魔術師につくためにはここを卒業するのが一番手っ取り早い（と言ってもかなりの努力が必要だが）と言われている。

その歴史は英雄クリス・ロジャーヌ以前までさかのぼり、衰退後は単に魔法学園としての機能のみを果たしていたが、クレア・ライズ・フォント以降、魔法学園と魔法に関するすべてを取り仕切る組織として再建された。

その再建者はルーヴァン・ヘウンリークとベルディナ・アーク・ブルーネス。そして、その時代の魔法ギルドの長はシリング・クロフォード。

ギルドの中には様々な魔法対策委員会が設けられており、世界で起こった様々な魔法や魔術師による事件や紛争はこれらの委員会が処理する。また、「暁の騎士団」と呼ばれる魔法ギルド独自の軍も存在する。

魔法対策委員会やギルドの最高導師による命令によって活動するこの騎士団に対してはいかなる国であっても逆らうことは出来ない。

魔法ギルドの階級

(ローブの色)

- ・最高導師（ギルドの長）
- ・四大魔導師（赤、青、白、黒の魔術師）
- 各々
- ・導師

紫

深緑＋肩章

- ・準導師

深緑＋肩章

・大魔術士

深緑 + 肩章

・上等魔術士

・一等魔術士

一般魔術士

灰色（階級は肩章による）

・二等魔術士

・準魔術士

茶色 + 肩章

・修学生（学園生）

黄色 + 肩章

・ギルドに在籍しない魔術師

灰色（肩章

無し。在籍していた頃の階級はギルド認定書に記載される）

準魔術士になるには、ギルドの魔法学園を卒業すればなれる。

大魔術士は、上等魔術士の中でとりわけ実績を残したものが導師から認定されればなることができる。

導師には定員に枠があり、それに空席ができたとき四大魔導師と最高導師の話し合いにより次の導師が選ばれる。導師は年齢もある程度考慮に入れられるが、何よりも魔法にたいする深い思慮を持ち、その思慮に違わない実力と実績のあるものが選ばれる。

四大魔導師は四大魔導師が引退するとき、その跡を継ぐものをあらかじめ選んでおき、最高導師の認定により交代する。導師は多くの弟子をとるが、四大魔導師は多くて2〜3人ぐらいの弟子しかとらない。

準魔術士が一般魔術士になるには平均して4、5年かかる。ごくまれに、修学生の中で類い希な才能を持つものが準魔術士を飛び越して、一気に一般魔術士になることもある。

基本的に、能力さえあれば上に行けるシステムなので、導師や魔術士の中でも年齢にかなりの差がある。

魔法学園は、簡単な試験をパスすれば入学ができる。

奨学金の制度も充実している。入学金、授業料は割高ではあるが、その本人のやる気と努力と実力が認められたらある程度は免除される。

なお、学園において教鞭を執るのは導師か大魔道士の役目となる。ベルにつけられている「大導師」の称号は、正式な階級ではなく、名誉称号のひとつでもある。大導師であるベルは、事実上四大魔導師より上に見られる。また、名誉称号は今のところ「ルーヴァン大師父、マリアン大老師、ベルディナ大導師」の三つが確認されているのみで、この称号がいかにも大きな権威を持っているかが伺える。給料は、魔術士になって初めて渡されるもので、準魔術士や修学生には渡されない。ギルドの運営資金の6割近くは各国からの寄付金でまかなわれている。

導師や、大魔術士の中には各国から王国専属の魔術士になってほしいという声もかかり、そうなるとギルドの階級からははずれるが宮廷魔術師としての役職に就くことができる。

導師にもなると、ギルドだけではなく各国の公式機関や王宮にも顔が利くようになる。その分導師になるのはかなりの努力と幸運が必要になる（人並みを遙かに超える努力は当たり前、後は幸運のなせる技、とも言われている）。

魔法学校

魔法ギルドが運営する魔術士を養成する学校。魔法ギルド本部を頂点に、各国の王国にも設置されている。当然、魔法ギルド本部の学校がもっとも名門（日本国内での東大以上）。ギルド以外の国では、魔法学校は魔術士を養成する機関と言うよりは、一般教養や知識を身に付けるための学校である色が濃い。ベルも一時期だけギルドの魔法学校で教鞭を執ったこともある。ギルドの大魔術士、導師は少なくとも5年間は学校の教員になる義務がある。魔法学校の教員になるには、様々な方法があり、一概にどうということはない。

一応、魔法学校にもそれ専用のコースもある。

入学するには、それなりに読み書きと計算ができ、入学金と寄付金を支払い、その後に行われる実習形式の試験と面接をパスする必要がある。ごく希に導師のスカウトによってそれらを免除される者や、地方の学校に通っている者の中でとりわけ優秀な者が編入してくる事もある。入学年齢は特に規定されていない。授業期間は春先から夏の終わりにかけてで、秋から冬には閉じられる。それは、冬になると魔法ギルドの流通が滞ってしまうこともあげられるが、導師達に十分な研究機関を与えろという配慮もなされている。

カリキュラム（必要科目）ここに記すのは卒業に最低限必要とされる科目

基礎段階

- ・ 呪文学
- ・ 薬学
- ・ 生態学
- ・ 物質学
- ・ 歴史学
- ・ 倫理学

発展段階

- ・ 素材学（生態学、物質学）
- ・ 道具学（物質学）

応用段階

- ・ 調合学（薬学、素材学、呪文学）
- ・ 構成学（道具学、素材学、呪文学）
- ・ 魔術実習（呪文学、倫理学）
- 終了段階
- ・ 魔術士訓練課程（応用段階の科目全て、歴史学、倫理学）

武器（#1）（前書き）

本編中、前半でレミュート達が所持している武器とそれらに関するもの設定です。

武器（#1）

エルザード・モデル96・ヴィーターカスタムタイプ

ミリオンの持つ剣。スリンピア王国制式採用ロングソード、エルザード・モデル96をソード・スミスであるヴィーター・ゲインズ・ロールが独自の改良を施した最高級品。ミリオンがグラジオン王国の正規騎士になった祝いとしてプロミネンス子爵家から贈呈された業物。

エルザード・モデル96

スリンピア王国騎士制式採用ロングソードの一般市場向け品。制式名称はスリンピアナイツ・ロングソード・モデル4・アレンジ2（スリンピア騎士団において4番目に制式採用となったロングソードの第二号改良モデル）。実に30年以上もの間スリンピア王国騎士の間で使用されてきたロングソードで信頼性が高い。

ハーゼル・モデル12・セミロングバージョン

レミーが物語り冒頭で買い換えるロングソード。通常のロングソードを軽量化したカスタムモデル。ハーゼル・ハイト・ウインキアが制作したもの。

ビアンキ・モデル48・セミロングバージョン

レミーが物語冒頭で破棄したロングソード。特性は上記のハーゼルモデルと殆ど変わらないが、こちらはより初心者向きとなっている。若い剣士の練習に最適のモデルとして有名で、ミリオンも成人する前まではこのタイプを使っていた。刀匠、カーレル・メニツク・ビアンキ作。

小剣レヴィナス

ベルが所有している小剣。元々とある遺跡から発掘されたもので、炎を操る事が出来る。発見者であるレヴィナス・フォン・ハーディアの名にちなんでいる。ベルは、戦闘に使用する他、煙草に火を付けたりたき火をしたりするときによく使っている。

小剣アーケス、クルーデイ、クロトはこの剣の兄弟に当たる。

現代の技術ではこれらを複製することは不可能であるため、非常に貴重なものとなる。物的価値は一本で一財産も二財産も築ける程と言われている。特殊精製のミスリル合金で形成されている。物語本編では、ミリオンのサイドアームズとして彼に貸し出されている。

小剣ラグナ・メルフィス

伝説の剣匠ラグナの作り出した4本の小剣のうち的一本。未知の金属が使用されており、その特徴は魔法力の吸収、放出。ベルの魔法力を吸収しても耐えられるほどの容量と強度を備えている。発動のスペルを流し込むことで内部に込められた魔法力を放出することが出来る。

小剣ディムス

防御の魔法が込められた小剣。これを掲げると物理的、魔法的攻撃から身を守る魔法盾を展開できる。元々ベルのコレクションの1つだったが、旅立つ際に護身用にとユアに譲渡される。

小剣アーケス

風を操る小剣。

小剣クルーデイ

水と冷気を操る小剣。

小剣クロト

大地を操る小剣。

小剣ラグナ・メルフィス

小剣ラグナ・フィルネス

小剣ラグナ・ルジオネイス

小剣ラグナ・リオニス

伝説の剣匠ラグナの作り出した4本の小剣。強い魔法力が込められた小剣。その一本のラグナ・メルフィスをベルが所有する。それ以外は魔法ギルドが保管しているという噂。

武器（#1）（後書き）

軍隊（騎士団、兵士団）の装備は、国がトライアルに勝ち残ったものに制式名称を与え調達することは現代地球と変わりありませんが、大量生産技術は皆無であるので年間調達量はそれほどの数ではありません。

調達された武器は騎士に優先して支給されるので、兵士の多くは自分で調達した武器を使用するか、騎士のお下がりの武器を使用するのが一般的です。

エルザードやヴィーター、ハーゼル、ビアンキ、ラグナ等の剣匠に関してはまた別にアップする予定ですのでこの場では割愛します。

登場人物概要(1)

キャラクターの設定概要です。以下は第一部開始時のものです。

レミュートアンファイン・グラジオン

- ・年齢 16歳
- ・性別 女
- ・立場 グラジオン王国王女、王位継承権を持たない。
- ・職業 魔法剣士
- ・容姿
身長159cm、体重47kg。紅の長髪で背中の中程まで伸びている。青の瞳。肌は白い。胸は薄く、全体的に華奢であり女性的な体格ではない。
- ・性格
明るく活発だが、少し内にこもりやすい。悩み始めると他のことに注意が向かなくなるがそれだけ集中力が高い証拠でもある。
- ・補足

父や英雄伝の影響で剣術に興味を持つが生来の才能の欠如でそれほど上達していない。しかし、魔術に対する才能は相当なものである。

ベルディナ・アーク・ブルーネス

- ・年齢 328歳
- ・性別 男
- ・種族 エルフ族
- ・立場 グラジオン王国王宮魔術師、魔法ギルド大導師

- ・職業 魔術士
- ・容姿

身長163cm、体重56kg。肩に掛からない程度に短くまとめた青髪に金色の瞳、とがった耳は一般的なエルフと同じ。年齢に似合わず非常に若々しい容姿をしている。

- ・性格

他人をからかうことが好きで、特に気に入った者に対してはことあることにちょっかいをかける、所謂子供っぽい性格。しかし、300年以上の時を生きる者としてかいま見せる威厳はそうとうなもの。面倒くさがり屋で退屈嫌い。趣味に関しては凝り性。

- ・補足

世界有数のワインコレクターで私室には専用のワインセラーを置くほど。普段吸っている煙草は魔力を押さえるための薬だが、薬ではない煙草もたしなむ。ギャンブル好きで金のある時は良く国営力ジノに足を運ぶが、賭け事には弱い。大酒飲みだが宿酔いとは無縁。生まれながらにして強い魔力を持ったために物心つく前から幽閉されており、両親はおろか他の同胞の顔を見たことがない。そのためエルフ族でありながらエルフ族に対してはあまりいい感情を持っていない。

魔法ギルド再建の祖として大導師の称号を得、現在でも彼を慕う者が多い。

ユアの育ての親で彼女の将来を一番に心配する。結婚歴は無しで今後もする予定はない。

ミリオン・ラスラ・プロミネンス

- ・年齢 24歳

- ・性別 男

・立場 グラジオン王国騎士団所属、王女専属護衛官。プロミネンス子爵家現長男

・職業 騎士

・容姿

身長182cm、体重83kg。さつぱりと短く切られた黒髪で瞳はブラウン。肌の色は白に若干の黒が混じっているような感じ（スポーツマン風？）。日頃の鍛錬で充実した筋肉を持つが服を着ると意外とやせているように見える。

・性格

非常に堅苦しく、義を重んじる騎士の鑑のような性格。口調も堅苦しく、クールな印象を受けるが内面は非常に熱い。

・補足

騎士の名家の出身で、立場上は貴族の息子だが本人は貴族である前に騎士であることを重んじている。プロミネンス家現当主である父、ブレス・クレイア・プロミネンスと母は存命。カナン・レミア・プロミネンスという姉がおり、かつてはユニオン・リグナ・プロミネンスという兄が居たが現在は死去している。ステラ・フォート・クレメンティスという幼なじみが居るが、10年ばかりあっていない。

物語冒頭より10年ほど前、彼が15歳の時に勃発した第四次境界戦争ではスリンピア王国側として戦争に参加している。

ユアの恋人で2年ほど前から交際しているが、互いに奥手であるためかそれほど進展はしていない様子。しかし、彼女の前では穏やかな表情を見せる。

ユア・タリス・キルリアル

・年齢 21歳

・性別 女

・立場 グラジオン王国医務局医師

・職業 治療士

・容姿

身長148cm、体重43kg。長い銀髪を縛らずに流している。金色の瞳。全体的に細く華奢な体格だが、女性的な魅力に満ちあふれる。年齢に比べると幼く見え、レミーより年下に見られることも多い。それが少しコンプレックス。

・性格

気弱で儂く、少々優柔不断で人付き合いが苦手。しかし、医師としての彼女は人が変わったように冷静で凜としている。少し子供っぽい口調で話す。

・補足

生まれて間もない頃ベルディナに拾われ、そのままグラジオン王国で彼に育てられる。

趣味は占いで、6歳の誕生日にベルディナから贈られたタロットカードがきっかけで本格的に勉強をするようになる。占星術師になる道もあつたが、彼女はあくまで医師の分野を志す。治療魔術に対して高い適性を持つ。

グリユート・デファイン・グラジオン

・年齢 42歳

・性別 男

・立場 グラジオン王国国王

・容姿

無敗將軍と恐れられた歴戦の勇士で現在もそれを伺えるほどがっしりとした体格をしている。濃いブラウンの髪を短く切り上げ、瞳はグリーン。ミリオンよりも拳一つ分ほど背が高い。

・性格

どっしりとした性格。物事に動じない様は山のようにあり、その決断力は矢のごとくと呼ばれる。しかし、子供のことになると思える父親のまま。

・補足

誕生と共にベルディナが教育係となり、やがては良き友人となる。成人する前にベルディナをつれ数年間世界を漫遊した経験がある。妻でありレミュートの母親であるルミア・アングラス・グラジオンはその旅の中で知り合ったギルドの魔術師だった。旅先でミリオンの父親のプレスと意気投合し、そのまま旅に同行することとなった。現在でも公務の合間を縫って手紙をやりとりしている。第四次境界戦争の10年前の第三次境界戦争においてはグラジオン王国軍を指揮し、まさに鬼神の如き戦いを世界に見せつけた。戦争後、戴冠し国王となる。

(補足：名前の後の中名は成人を表すもので15歳以上の男女に与えられる。しかし、特定の職業に就く者には別の中名が与えられ、慣習的にそちらを名乗るようになる。つまり、レミュートの中名である”アンファイン”は王女(または王子)であることを示し、グリュートの”デファイン”は国王を、ベルディナの”アーク”は大導師であることを示す)

登場人物概要(2)

クロード・ゼフィール・スリンピア

・年齢 41歳

・性別 男

・立場 スリンピア王国国王

・容姿

スレンダーで肉付きは薄い。どちらかという戦略家でグリユートと違い頭脳派。黄金の髪で、若い頃は腰まで伸ばしていたが戴冠後はマントの紋章を隠さないようにうなじが見える程度まで切りそろえられている。細めで切れ味が良さそうな双眸をしている。

・性格

何事にも冷めた視線を崩すことがなく、気心の知れた友人以外には殆ど表情を表すことはない。友人の前ではあまり冗談を言わないベルデイナのように少し軽い口調で話す。国王である時はまるで人格が入れ替わったかと思うほど重々しい威厳を持つ。

・補足

正妻の妃と息子が一人、娘が一人。両方ともグラジオンの王室とは仲が良く、二人ともレミュートとレイリアの友人である。

また、グリユートと個人的な交友関係を持つ。父は妻を多く持ち、異母兄弟がたくさんいたが、彼が戴冠する際の跡取り問題でかなりの血みどろの争いをしてきた。その争いには直接関わらなかつたが、裏ではその争いを何とか平和裏に終わらせるために奔走した様子である。とりわけ剣の腕が立つというわけではないが、跡取り争いの動乱で命を狙われていたこともあり最低限の護身程度は可能である。血みどろの争いをしてきた姉弟達のことを心から愛しており、彼らが相打ちの形で命を落としたことには心の底から嘆いていた。

血統としては、第三位の妃の出であり、前スリンピア国王の子供達の中では最も最初に生まれた。そのため、幼少の頃から他の王子、

王女つまり弟、妹たちの面倒を見て育っている。

本編の前王の遺言からも分かるように、父王からは最も信頼されていた様子。父王のことは馬鹿な男と評するが、父親として国王として尊敬していた。ガルフィス帝国とは折り合いが悪い。

グレイア特使

- ・年齢 29歳
- ・性別 男
- ・容姿 特に決めていない
- ・立場 スリンピア王国側近武官、連絡特使
- ・性格 まじめで不器用。国王の側近として彼に対する忠誠心は高い。
- ・補足

若いが実直な性格で、不器用ではあるが行動は早い。元々兵士から騎士を経て王室武官となった人物で元は平民の出。その経歴から分かるように非常な努力家で逆境にめげない。その力強さを買われ、クロードが直接彼を徴用したという経歴もある。彼の最も近い護衛官も兼ねており、連絡特使としての業務と武道の鍛錬とで非常に忙しい毎日を送っている。

仕事に熱中するあまり婚期を逃してしまい、この年で未だ独身という。クロードからはさっさと嫁でももらって身を落ち着けたらどうだと言われているが、今のところそれが実現しそうにはない。言い寄る女は多いが、生来の硬派であるため具体的な交際には至っていないとのこと。

数年前からスリンピア王国に訪問するレミュートの護衛官として付きそうミリオンとも面識があり、数回の出会いで友人になってしまったらしい。その縁で何度かミリオンと鍛錬を共にしたことがあるらしい。

彼を視点にスリンピア王国の王宮風景を描いてみるのも面白いか

もしれない。

グラジオン王国（前書き）

旅の始まりであるレミュートの故郷。グラジオン王国に関する概要です。

グラジオン王国

「聖銀の王国」

現在グリユート・デファイン・グラジオンを国王とする王国。スリンピア王国の東に位置する大きな島を領土とする。

元々はスリンピア王国に属するグレイド公爵領であったが、ある時を境に独立しその後もスリンピア王国と友好な関係を築いている。グレイド公爵は元々スリンピア王家と遠縁の関係にあり、貴族としては最も大きな権力と領土を有していた。

国土は狭いが、高品質のミスリル鉱山がありそこから産出する豊富なミスリル鉱が最大の外貨資源となっている。世界で名だたる名剣と呼ばれるもののほぼ8割がグラジオン王国産のミスリルであるといわれており、その信頼性や実績は既に説明する必要もないと思われる。

ミスリル鉱山があるためか土地はやせており、放牧もそれほど盛んではないため食料の供給の5割をスリンピア王国に頼ることとなっている。

元々グレイド公爵領自体がスリンピア王国領で発見された巨大なミスリル鉱山を管理運営する目的で与えられたものである。

気候は夏はそれほど気温が上がらないが、空気にかんりの湿気を含むため蒸し暑い日が続く。冬はそれほど気温が下がらず、雪も降らない。秋が存在せず、春と呼ばれる季節も長くない。

主に飲まれる酒はウィスキーなど穀物系の蒸留酒で、主食は芋、料理は羊などの獣肉と海魚が主体で味付けはかなり濃く、香辛料をふんだんに使うため辛め。食文化はわりと低い水準にあると言っている。そのため、グラジオンの連中は味音痴だとか、生まれながら舌が分厚いなど、料理に関するエスニックジョークには必ずその姿を現す。

国民の多くが国営のミスリル鉱山で働く鉱山夫であり、体格もがっしりしている。また、ミスリルの加工技術は世界一を誇り、彼の名匠エルザードも元はこの国の出身である。城下にも多くの鍛冶屋があり、朝の日も昇りきらないうちから工場から響き渡るミスリルを叩く軽快な音が一種の風物詩となっている。

家屋などの構造物にもその技術が応用されており、木材と石と鉄を上手く織り交ぜたコンパクトで風通しが良く更に頑丈な家は世界中から認められている。

国民自体に職人的気風がある。

政治外交的にはスリンピア王国と協調路線を建国の時より貫いており、スリンピア王国の海軍力の多くを担う位置にある。船舶の技術で言えばガルフィス帝国に一步譲るが、海軍力はガルフィス帝国の帝国艦隊と対等に渡り合えるほどの練度を誇る。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1726f/>

聖剣の姫君 設定資料集

2010年10月12日01時20分発行